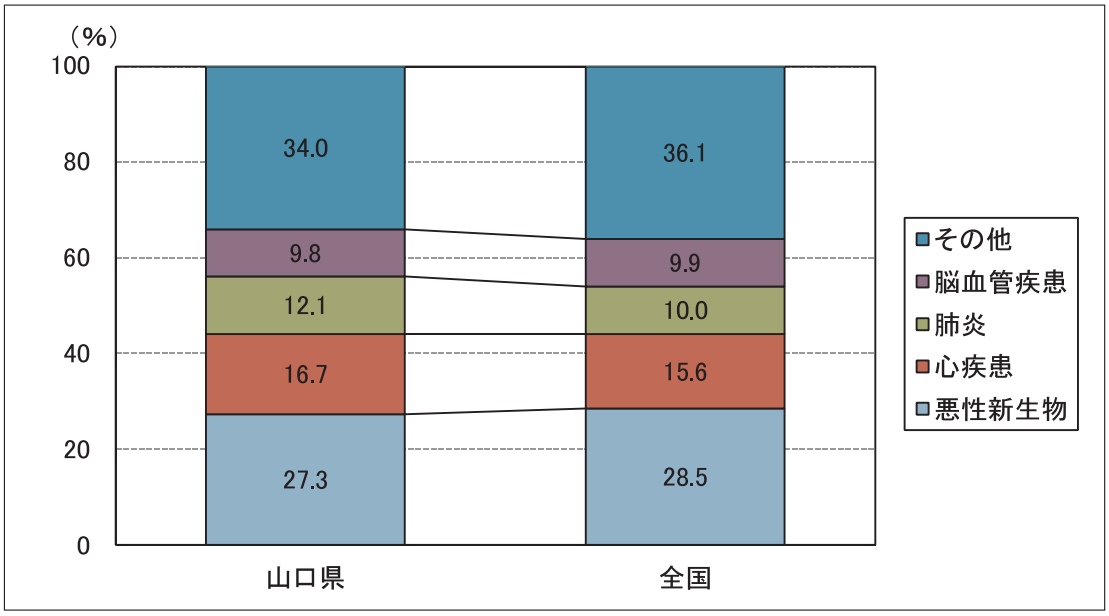
## 第２章　山口県の歯・口腔の健康をめぐる現状と課題、取組

山口県において総人口に占める65歳以上の人口の割合は全国平均を５ポイント上回り、高齢化が進行していることは注目すべき事実であり、計画策定において留意すべき項目の１つです。山口県及び我が国において共に死亡順位が第３位である肺炎に関して（グラフ１）、高齢者に起こりやすい誤嚥性肺炎の予防に良好な口腔清掃状態の維持が有効であると言われていることからも、高齢期における口腔ケアの強化が必要です。さらに、その前段階である成人期におけるう蝕と歯周病の対策、学齢期（６歳～19歳）、乳幼児期における口腔衛生に関する正しい知識の習得と習慣の確立、年齢にかかわらない定期的な歯科検診（健康診査又は健康診断において実施する歯科に関する検診を含む）の受診、80歳になっても自分の歯を20本以上保つ事を目標とする8020運動や、ひとくち30回噛むことを目標とする噛ミング30（カミングサンマル）の推進など、生涯にわたった歯・口腔の健康づくりに取り組んでいく必要があり、正しい知識の普及啓発を推進する期間として、歯と口の健康週間（毎年６月４～10日）や、歯・口腔の健康づくり推進週間（毎年11月８～14日）が定められています。

また、う蝕や歯周疾患の予防には、個人が行うセルフケアと、市町の保健センター、学校、職場等で行われるパブリックケアに加えて、地域の歯科診療所での定期歯科検診、フッ化物塗布、フッ化物洗口、歯石除去等のプロフェッショナルケアも大切です。

＜グラフ１＞　山口県及び全国における死因別死亡率の状況

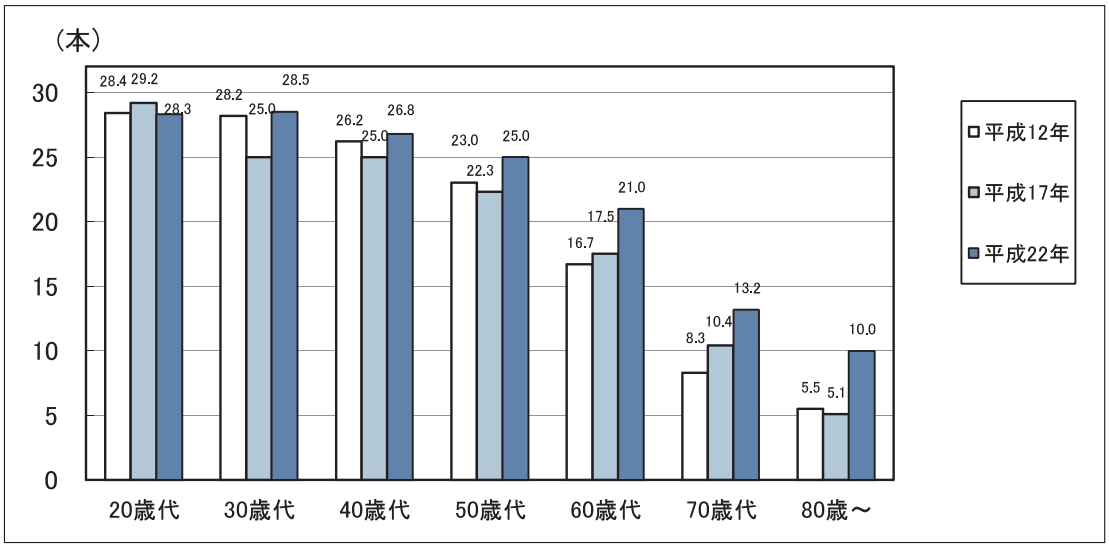



＜人口動態統計調査 2011＞

近年の山口県全般の傾向としては、歯科保健活動の普及により１人平均現在歯数の増加が全年齢層において見られています（グラフ２）。一方、歯肉に所見を有する者の割合は各年代において減少傾向にあるものの成人期において未だに高く（40 歳代以降は 70％以上）（グラフ３）、自分の歯をできるだけ多く残すために、歯周病に対する取組がより重要性を増しています。80 歳で自分の歯を 20 本以上有している 8020 達成者（75 ～ 84 歳）も増加傾向が見られますが、達成者は 28.9％であることから、継続した取組が必要です（グラフ４）。

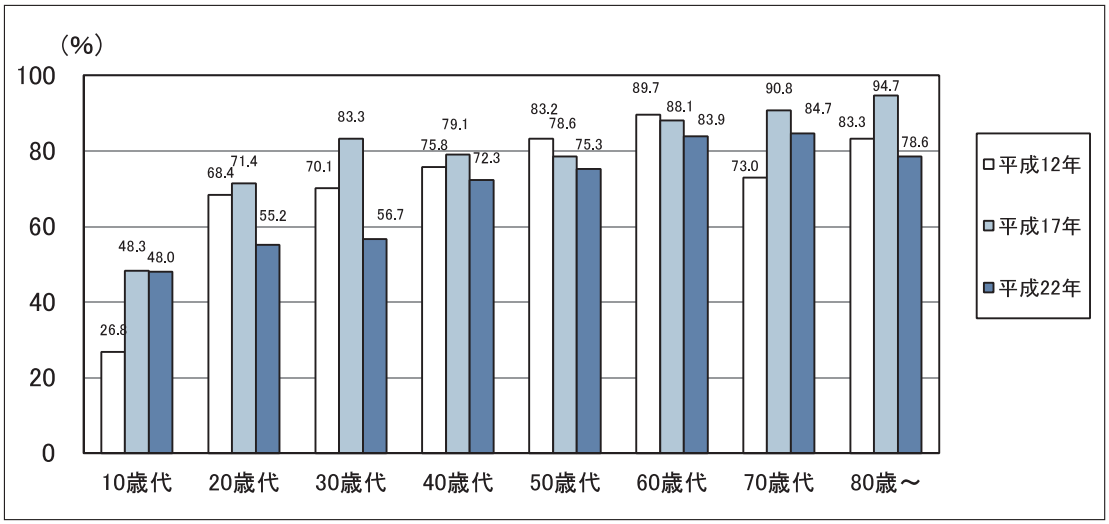
また、１年間に定期歯科検診を受診した者の割合は 34.6％と５年前の調査より 4.1 ポイント増加していますが、受診しておらず今後も受けたくないとする者も 20 代前半から 50 代の男性や 80 歳以上の者を中心に全体の 27％います。歯･口腔の健康は全身の健康に影響を与え、一生を通じて取り組むものであり、県民に向け、各自で行う健康づくりをより確実なものとするために不可欠なものとして、検診等のプロフェッショナルケアを含めた取組の必要性について周知を図ると共に、地域や職場に対する普及啓発にも一層取り組む必要があります（グラフ５）。

＜グラフ２＞　１人平均現在歯数



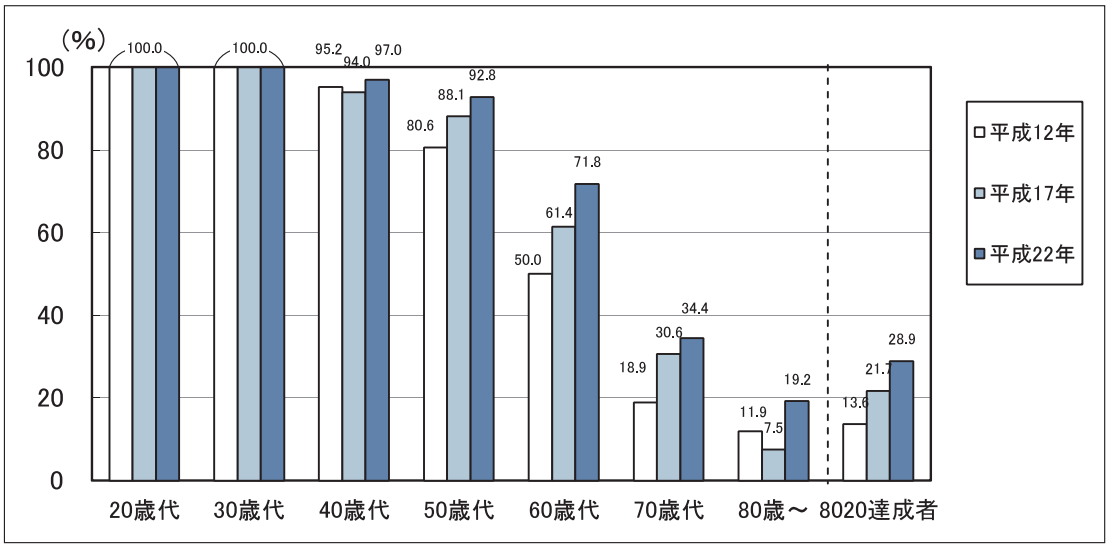

＜県民歯科疾患実態調査＞

## ＜グラフ３＞　歯肉に所見のある者の割合



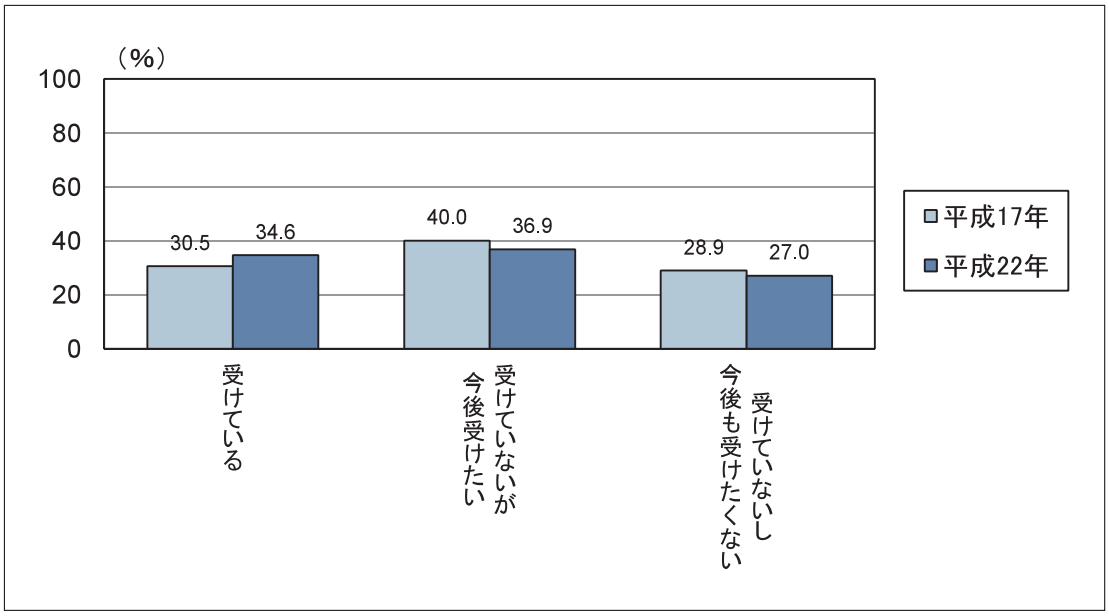

＜県民歯科疾患実態調査＞

## ＜グラフ４＞　20 本以上の歯を有する者




＜県民歯科疾患実態調査＞

＜グラフ５＞　歯科検診受診状況（年に１回あるいは半年に１回）




＜県民歯科疾患実態調査＞